

令和3年度 第1回北杜市健康づくり推進協議会 会議録

- 1 開催日時 令和3年10月20日（水） 午後3時半から
- 2 開催場所 北杜市役所 西会議室
- 3 出席委員 吉田和徳、津金永二、小池雅美、松田由美、原真樹子、小宮山幸枝、  
小林初男、跡部元、矢巻未菜、清水精、徳光康平、赤羽久
- 4 欠席委員 岡安祐樹、清水より子、浅川正人
- 5 出席職員 上村市長、八巻健幸市民部長、伴野福祉部長、白倉介護支援課長、  
山田福祉課長、中澤子育て応援課長、河手ほくとっこ元気課長、  
興水介護支援課指導監、白倉ほくとっこ元気課指導監
- 6 事務局 浅川健康増進課長、中田保健指導監、佐藤栄養指導監  
健康づくり担当 有賀、小澤、小池、志村、中嶋
- 7 会議録署名 津金永二委員、小池雅美委員
- 8 公開・非公開の別 公 開
- 9 傍聴人 0人

1. 開会
2. 委嘱状の交付
3. 市長あいさつ

<ここで、公務のため市長退出>

4. 委員紹介
5. 職員紹介
6. 会長・副会長の選任
7. 会長・副会長あいさつ
8. 議事（議長 吉田会長）

(1) 第2次北杜市健康増進計画令和2年度事業実績報告について事務局より説明する。

質疑応答

委員

二点あります。一点目は、健康増進計画の中で高齢期の重点目標がありますが、平成28年から令和2年までの実績値が載っていない。これについて説明をお願いします。

もう一点は、区長班長さんから新型コロナウイルスの対策について聞かれたのですが、身近なところで感染者や発症者、濃厚接触者が出た場合には、区民や居住している人たちにその旨の周知をする必要があるのか。どのように対応するのか教えていただきたいです。

輿水指導監

一点目の質問に回答させていただきます。介護保険制度が設立されてから、高齢者の方が要介護状態にならないように、ゆうゆうふれあい計画を立案しているところです。その計画の中で、高齢者の方の様子を3年に1回、無作為抽出で調査をしています。それが3年に1回のデータですので、毎年の実績値が載っておらず、ところどころの実績という形で表現させてもらっています。

浅川健康増進課長

新型コロナウイルスの感染の対応について、わかる範囲でご説明させていただきます。

コロナの感染者については、県で感染者のコントロールを行っており、新聞報道等で状況発表がされているところです。報道の中では、どの地域でだれが感染しているかというのは発表されていません。ですので、地域内の噂で感染しているのがわかったりしても、その方のプライバシーや、感染が原因でいじめの対象になってもいけませんので、できる限りそういったものを尊重して、地域で周知しないほうがよろしいのではないかと思います。

委員

もう一つよろしいでしょうか。

感染者の親族から申し出があって、家族の中で感染者が出た場合、居住地内への周知をしたほうがいいのか、区長さんに相談があった。そういう場合でも、区長だけ承知をしておけばよいということでしょうか。

八巻健幸市民部長

区長さんにそういった相談があったという情報は入っていませんでしたが、感染者が出た場合には全て県のほうで対応していますので、あえてその感染状況を区全体に広げる必要はないと思います。そういった対応は県のほうで外出制限などを設けておりますので、区全体に広げては却って別の問題の波及の心配も出てきますので、必要ないのではないかと思います。

委員

二点意見があります。

15頁の「介護予防の普及」「介護予防の実践」とあるのですが、介護予防の実践事業は市の事業でなければだめでしょうか。社会福祉協議会ではふれあいいいききサロンという事業があります。介護認定を受けていない方がいる地域に回って行って、その人達が集まって介護予防に努めるという事業があるので、市と連携がとれば数値も上がるのではないのでしょうか。

それと、各行事なのですが、策定時のパーセンテージがあります。その目標値がかなり高く設定されているのが見受けられます。当然、策定時の指標でありますから、目標の数値は徐々に上げていく形で策定すれば、実績率が上がってくるんじゃないかと思います。

興水指導監

介護予防の実践事業について、市の取り組みに絞っておりますので、今後はそういったことも含めて、情報収集をしていければと思います。

委員

いろいろなパーセンテージが出ているのですが、0歳児、3歳児、5歳児というように、検診に参加された方の実数のアンケートの結果なのかと思いますが、高齢者の週2回以上運動する人の割合だとか、標本の取り方について、どのようにとっているのか伺いたいです。

輿水指導監

高齢者のほうにつきましては、標本は総合健診の受診者の65歳以上の方を母数としてとっているという形です。

白倉指導監

乳幼児健診につきましては、乳幼児健診に参加したときの間診表で回答したものを参考に、結果としてあげています。

委員

わかりました。ただ、高齢者の健康診断の受診者だけだと、標本に偏りがあるかと思います。

## (2) 第3次北杜市健康増進計画の策定について事務局より説明する。

質疑応答

委員

第3次健康増進計画の評価指標のところですが、第2次の評価にもかかわってくるんですけど、健康診断に来た人のうち何パーセントというような、そういう評価だったかと思えます。ただ、市の健康診断に行かないという人も多いのではないのでしょうか。市民のどれくらいの割合が、何パーセントの人が健康診断に行っていて、その中の何パーセントが回答していてと考えていくと、その指標でいいのかというのが疑問に思えます。

また、健康診断に行く人は健康意識が高い人が多く、令和2年度は行く人が全体的に少ないけれども、意識の高い人が来たから数値が上がったというのは、評価になるのかと疑問があります。第3次健康増進計画でどのように評価をするのか、評価の出し方を考えていく必要があると思えます。

佐藤指導監

ご意見ありがとうございます。

現在評価指標については検討中のところです。いただいたご意見を策定メンバーに伝えまして、検討させていただきたいと思えます。

(3) 第2次北杜市自殺対策計画の策定について事務局より説明する。

質疑応答  
委員

この自殺対策計画はとても大事なことだと思います。

最近の子どもたちは悩みがあっても自分でなんとか解決してしまおうという傾向があって、あまり感情を外に出さず、なにか困ることや悩みがあっても、心の内でなんとかしてしまおうという傾向を感じています。学校では令和2年度と3年度で若年層メンタルヘルス事業という、保健所がかかわっている事業の実践校がありますが、そこでは、専門家の講演を聞いたり生徒へのメンタルヘルス授業を行ったりして、ストレスをどのように回避するかとか、SOSを求めるとき具体的にどんな言葉でしたらいいか、SOSを受け止める方も相談された側がどういうふうに対処したらいいのかということを学んできました。

それを学んだから、みんなの心が健康になるわけじゃないと思いますが、そういう方法を知ることによって、効果があると思います。ただ、その実践校は今年度で終了となります。ほかの学校でも、そのようなことを実践していくのが大事だと思います。今後取り組みを進めていくためには、学校独自では難しいので、市でカリキュラムを共有して、講師を呼ぶときに予算をだしてもらおうとか、手続きを後援していただいたりして、全部の学校へ広めていくというのを、第2次自殺対策計画に入れていただいて、継続していくのが大事だと思います。

また、子どもたちが中学校や高校にいるあいだは、何か問題があれば学校で承知するので、その子に対していろいろな対応ができると思います。今は先生だけではなくて、スクールソーシャルワーカーやいろいろな相談機関があることがわかったので、相談してそういった子に関われます。しかし、例えば高校生で学校を辞めてしまった場合とか、どこにも所属していない人っていうのもいます。引きこもっている方も市内にたくさんいると思います。けれども、そういう方をどのようにフォローしていくのかというのを、とても心配しています。学校にいる間もちろんですが、その後、そういう方にフォローしていかないと自殺者は減っていかないのかと思いました。

そのあたりを事業として考えていただくといいのかと思います。

中田指導監

貴重なご意見ありがとうございます。

私たちがSOSの出し方の教育というのは、自殺対策大綱にも上がってきていますので、今後ますますそういった形で行っていかねばと思います。ぜひ学校との連携も含めながら、そういった方たちが地域に出てからの対策を一緒にして考えていかねばと思います。

委員

細かいところで申し訳ありませんが、12頁のカッコ3のレベル3の割合の数値について、これは違うんじゃないですか。よく見直していただきたいです。

中田指導監

訂正させていただきたいと思います。ご指摘ありがとうございました。

(4) 今後の予定について事務局より説明する。

<質疑なし>

(5) その他として、総合健診追加日程のお知らせと、いいことチャレンジ健幸ほくとについて事務局より説明する。

<質疑なし>

## 9. 閉会（原副会長）

以上、令和3年度第1回北杜市健康づくり推進協議会の内容を記載し、その内容に相違がないことを証するため、ここに署名する。

署名委員

---

署名委員

---